

新建福岡・NOW

第15号 2017.06.20

発行元
新建築家技術者集団
福岡支部事務局
〒815-0041
福岡市南区野間 3-9-20-4F
[ケイ・プラッツ内]
Tel/Fax 092-541-8128
HP : shinken-fukuoka.net

今年は空梅雨がつづき、じわじわと暑さを感じています。みなさまお変わりなくお過ごしでしょうか。前号(14号)は、今年2月の発行でした。その間に開催しました新建福岡支部企画の報告等をお届けします。

2
/
25

2月例会「熊本地震に学ぶ」

第1部講師：多賀直恒氏（九州大学名誉教授） / 第2部：西村正巳氏（M-arc 設計）
会場：アミカス

第1部は多賀直恒教授による「熊本地震の特性と建築技術者への問題提起」というテーマでの講演。九州地方の地震環境、被害から学ぶこと、被害の実態、被害の特徴、マンション被害の中で非構造壁の被害実態に対しての問題提起。また住宅の耐震化に向けて壁となっている費用負担など、様々な角度の切り口から熊本地震に対する考察がありました。



第2部は「熊本地震からもうすぐ1年。地震のその後、熊本の今。そしてこれから座談会」。まず熊本在住の西村正巳さんにより震災直後からの体験談。車中泊や水の確保にも苦労された話。避難所の仮設間仕切を提案した話。住まいるダイヤル・建物修復支援ネットワークでの活動状況。そして自宅マンションの管理組合理事として、応急修理制度の実態の説明がありました。被災者を早急に元の生活に近い環境に戻す制度なのに矛盾した対象範囲の制限があり、加えて別の建築士が安易に居住者への情報提供し管理組合の信頼関係構築にも苦労され、応急処置をどう行うかの方針すらまとまらない状態との事。制度の壁が復旧を阻害している生の声を聞き、震災とは違う被害があることに胸が痛くなりました。

その後新建会員が見た熊本地震として4名の話がありました。古川さんからは仮設住宅の話（従来の仮設住宅より住戸間が広く木材が多く使用された快適性を増した仮設住宅）、大坪さんからは阿蘇のカルデラが出来た頃までさかのぼり太古の歴史からみた熊本の地形と地層の話、渋谷さんからは被害にあわれた住宅の図面を分析した1階・2階の重ね図を明示し、壊れてしまった後を見ても分からなかった問題点（構造上の欠陥）を明らかにしていただきました。最後に矢野さんからは、地震の事を勉強してしる私達に、話は聞いているけれど「実際に防災グッズを整備し、枕元に懐中電灯を置いている人は？」と、核心をついた問題提起がありました。



セミナー後は、近くのお店に場所を移し懇親会にて引き続き13名の参加で感想を話しました。震災後1年になる熊本地震ですが、隣の県である福岡でもNEWSで流れる程度の情報は分かるものの、復興の実態は伝わってきていない事を気づかせていただきました。（報告 / 巻口義人）

次号から連載をはじめます



熊本地震から1年が経ち、多くの団体から地震そのものやその後の対応等についての意見が出始めました。

益城町での多くの木造住宅の被害状況を考えると、単に地震力が大きく、複数回あったからというよりも、設計・施工ミスと思われる建物も多く見受けられました。

今回木造4号建物についての材料、設計、応用等についてまとめて書籍にしましたので、その中から代表的なものをシリーズで発表しようと思います。

新建 Nowでの掲載は、次号 No.16号からの予定です。建築に携わる皆様に少しでも役立てればと思います。

（川崎 薫）

2016年に開催された「建まちセミナーin 富山」と「研究集会 in 吉野」に参加された方の報告会を、平岡ビル新谷邸の大広間に開催しました。

当日は鳥鍋をメインに各自1品”お勧めの旬なおつまみ”を持ち込んで、美味しいお食事やお酒を戴きながら和やかな報告会となりました。参加者は会員9名と会員外の4名の方で、沖縄から進路の相談もあって学生の中村さんも急遽参加され、いつものごとく夜が更けるまで話題に事欠か無い楽しい宴が続きました。

まずは8月の「建まちセミナーin 富山」の報告で、渋田さんからは福岡支部のオプション企画の黒部・立山の報告がなされました。大坪さん、片井さん、矢野さんからも思い出深い黒部の様子と、活気溢れる新建のセミナーの様子が語られました。今回残念ながらセミナーに参加できなかった巻口さんには、立山の地形模型がお土産だったようで、しばし山の話でも盛り上がりしました。先日会員になられた友人の瀬口さんも参加でしたので、次回の支部の登山の話題にも花が咲きました。(その後、可也山登山にも参加された多賀先生や瀬口さんも会員になりました！)

11月の「研究集会 in 吉野」に参加した矢野さん、片井さんと鹿瀬島からは、吉野での研究集会の様子が語られました。今回の研究集会には、福岡支部からは会員の片井、古川、宮本、矢野、鹿瀬島と、こちら後ほど会員になられた照井さんの6名が参加しました。会期中に中規模の地震に遭遇した事も忘れられない思い出で、前回の奈良の花見の際も地震で電車がストップをした事もあり不思議な縁があるようです。

(報告：鹿瀬島隆之)



やはり全国企画の内容や全国の状況を伝える報告会は、今後も継続して行なって行く事が良いと思えた例会でした。参加報告会(黒部立山、富山全国大会、吉野研究集会)という例会ではあるのですが、18時開始で軽く呑みながら、スライドを拝見してお話しをうかがうという、なんと楽しそうな素晴らしい企画でしょう。参加なさった片井氏、大坪氏、矢野氏、渋田氏が交代でスライドの説明をして下さいました。

まずはビールをあけてから、黒部立山のスライドです。トロリーバスやロープウェイを乗り継ぎながらの黒部ダムや高原(室堂?)全行程の素敵な写真が満載、そのお話も大変面白く聞かせていただきました。富山全国大会のスライドでは大会よりも「風の盆」の練習風景とその町並みの写真がとても印象的でした。どちらも魅力的な時間だったろうなあと、他イベントでどうしても参加出来なかったことが改めて悔やまれました。吉野研究集会のスライドの頃にはビールも多少まわっており、こちらもその内容よりは、吉野のお山の風景がなんともいい感じだわあーという記憶しか残っていないという残念な執筆担当者です。

スライドだけでなく特筆すべきはこの宴のたくさん肴です。会場提供して下さった新谷氏は鶏鍋を。鹿瀬島氏も筍と馬刺し持ってこられ、切って盛ってと贅沢なお皿が並びます。他参加者も一品持ちよりでサラダ、揚げ物、焼き鳥、海ぶどう、果物、シュークリームなどなど食べきれないほどのご馳走でした。そして最後のシメは鶏鍋のスープで雑炊です。おいしかった！食べて呑んでしゃべって、あっという間に時間が過ぎました。こんな例会があるのも新建福岡ならではかなあ、と新参者は今後も楽しみにするのでした。

(報告：江藤眞理子)



熊本地震発生から1年のこの日、岡田知弘氏(自治体問題研究所理事長)の記念講演と、発生時刻に合わせ追悼集会が行われました。新建からは、東京支部千代崎さん・山下さん、京都支部久守さん、福岡支部古川さん・卯野木さん・片井さん・鹿瀬島さんが参加しました。

4/15(土) 新建福岡登山部は昨年秋の基山登山に続き、可也山挑戦となりました。

100 キロウォークの人々で賑わっている筑前前原駅集合が9:00、そこから車で登山口まで移動し、10:00 スタートになりました。いくつかある登山道の中でも一番整備された階段のある道です。新緑に抱かれながら心地よい汗が出てきます。汗かきかき頂上に近づくと、なんと軽トラックの一団。話によると可也山神社の管理のための道路があるらしい。頂上は視界が300度開けた良い眺めですが、先客でいっぱいです。片井さんが準備したドローンの映像をご覧になった方もいらっしゃるかと思いますが、やはり頂上の景色は登山の醍醐味の一つです。

12:00 満員の頂上から少し移動して宴会の準備が始まりました。メインは巻口さん・瀬口さん準備の餃子ですが、皆さんの持ち寄りも、前は多すぎて余りましたが、ちょっと力が抜けていい感じ。しかも今回は片井さんのサバイバル飯(アルミ缶で炊くコンビーフの炊き込みご飯)も経験し、こんなのもありかと実感しました。

13:50 さてビールが入った一行の足取りは、登りと打って変わってのハードな道になりました。お尻から滑ったお方も……。途中で竹が登山道までも伸びてきています。そこで道具はないのですがタケノコ堀を楽しみました。

15:00 梅園のほうに降りると、江藤さんの知り合いの方のお宅に遭遇。素晴らしい景色につられ庭先に押しかけてしまい、自然とともに生きる暮らしを見せていただきました。その間に3台の車を下山口に準備していただき、きららの湯へ。16:00そこで二人合流。16:40から新谷別荘に移動。その頃空模様が怪しくなり、つく頃には本格的な雨となりました。ベランダで予定されていたBBQも男性陣が張ってくださったテントのおかげで、おいしくいただくことができました。さすが巻口さん抜かりがありません。20:00から屋内に移動し3次会です。卯野木さんから託されたお酒「可也」の説明を聞きながらおいしくいただきました。あいにく瀬口さんが持ってきてくださった天体望遠鏡で星を見ることはできませんでしたが、鹿瀬島さんの誕生日もあり大いに盛り上がった3次会でした。ノリノリの強者はさて何時まで頑張ったのでしょうか？翌朝の朝ごはんも心づくしの豊かなものになりましたが、所要のため早めに失礼いたしました。これを企画してくださった巻口さん、サポートしてくださった瀬口さん。快く場所を提供くださった新谷さん。様々なご負担をおかけしたのではないかと思います。それ以上に楽しいひと時をありがとう・・・と感謝の言葉で締めくくらせていただきます。

(報告 / 洪田あい子)



先日の可也山山歩きとその後の泊まり込みの懇親会お疲れさまでした。

巻口さんの周到な計画とお世話、瀬口さんの現場を実際に歩かれた上での案内、矢野さん始め女性陣のみなさんの朝食などの行き届いたお世話、何の事故もなく楽しい体験をすることができました。山歩きでの素晴らしいパノラマの美しい景色を堪能できて登った甲斐がありました。懇親会では雨に見舞われましたが、みなさんのシート貼りでの不自由もなくバーベキューパーティが実現できて良かったですね。部屋の中での3次会も暖炉を焚きながらの楽しい呑み会でした。家が古くて、いろいろと不自由であったと思いますが、また、何かの機会に使って下さい。お世話になりました。多賀先生の健脚に脱帽です。また、一緒に登りましょう。

(報告 / 新谷肇一)



山レクに参加された多賀先生より、メールをいただきましたのでご紹介します



萩からの便り～先日、可也山山歩き・懇親会を思う～

今、萩にきています。

高齢者ほど疲れの筋肉痛がゆっくと来るらしい。心地よい体感を感じています。

久しぶりの登山で若干心配していましたが、旨い先導と全体的な周到な計画登山に乗って楽しい山行が楽しめました。十数年ぶりの可也山はやはり下りが難所でしたが、全員無事にクリアできて素晴らしい仲間たちだと感心しています。最近、中高年の登山が問題視されているのでやや心配でしたが。私自身、持病の膵管狭窄による腰痛が心配でしたが、痛みも落ち着き行動できました。皆さんの和と輪に支えられて山行が有意義に楽しめました。

皆さんのチームワークの良さと気心の知れた仲間意識が素晴らしい。高齢の異分子が入っても上手く受け入れてもらって、私としては、非常に素晴らしいグループに参加したという充実感で山が楽しめました。温泉で汗を流し昨夜の会食は雨にもかかわらず和やかに過ごせて有終の美を飾った印象でした。

私の言った冗談「建築の話に全然しない」という意味を取り違えられたように思いました。大体、建築関係の人が集まったパーティーでは、終始建築の話ばかりで、休む時もなく専門の話ばかりするのが通例でしたが、ここは違うと思った。折角の時間を割いての休養の時には寛いだ雰囲気仕事から離れた自由な話、肩の凝らない打ち解けた雰囲気での会話を楽しんでおられる雰囲気に感心しての発言でした。このような環境をいつも醸し出すことが再生産のための英気を養う重要な時だと思います。

星の話、海の話、花の話、料理や酒や旅行や山の話・・・本当に楽しい会話を楽しんでおられる仲間意識が素晴らしい。これを共同体感覚というのだろうか、英語では community というのか、ドイツ語では Gesellschaft というらしいが、簡単にいえば、成熟した仲間意識を共有しているといえるでしょう。

今日の天気は雨後ですっきり晴れて山陰海岸の景観は素晴らしかったです。明日の講義を準備しつつお礼のメールを認めました。萩の桜はすっかり散っておりました。許されるのならこの楽しい集いの参加を心中では望んでおります。取り急ぎ可也山に誘っていただいた感謝とお礼まで

多賀直恒

Sビル再生プロジェクトがはじまりました

新建福岡の有志でSビル再生プロジェクトを開始することになりました。Sビルは、1972年築のRC造7階建て、共同住宅として使用されています。この企画を通じて、ストック再生技術を学び、ストックの再生が素晴らしい建築を生み出すことを実感できればと思っています。

第1回（5月24日）に建物の劣化調査、第2回（6月13日）に補修材料メーカーの方を講師に補修方法の検討を行いました。以後も続きますので、ご興味のある方はお問い合わせください。



福岡支部 今後の企画予定

- 7月22日(土)
「第4回仕事を語る会」
- 8月25日(金)
「第5回仕事を語る会」
- 8月
「夏のレクリエーション」
「建まちセミナー」
- 9月30日(土)
「新建学校2017」 講師：伴年晶氏

※詳細は福岡支部HPで随時掲載予定
www.shinken-fukuoka.net

編集後記

寄稿をいただいた皆さんのお蔭で、盛りだくさんご紹介できました（熊本地震に学ぶ NO.2 は次号に）。最近、世の中が変な方向に向いているようなので寄稿文を読んでいまして福岡支部の皆さんの人としての『やさしさ、気持ちの良さ』を改めて感じています。（原田）（原稿とりまとめ：原田 レイアウト：月成）